

## 東武鉄道の踏切問題 もくじ

- ・ もくじでは、原本の年号表記が元号（平成または昭和）となっている資料についても、西暦に換算した表記で統一してあります。
- ・本文中に記載したページ数は各資料ごとのもので、通算のページ数ではありません。また、ページ数を記載していない資料もあります。
- ・ 印の第一次資料は、原本から縮小コピーのうえ転載しています。
- ・ 印は編著者が調査・作成したオリジナル資料です。
- ・ 印の第一次資料は、編著者が入手または筆写してきたものを清書したものです。

資料名	ページ数	
	小計	通算
表紙	1	001
まえがき	3	002-004
もくじ	6	005-010
序章 竹ノ塚の踏切問題に係る、東武鉄道の罪状（書き下ろし解説）	6	011-016
1. 「営団地下鉄～東京メトロの車庫があるから高架化できない」という嘘の情報を流し、地域住民に「高架化はできない」と諦めさせる世論操作（マインドコントロール）を行うことによって「開かずの踏切」問題を放置し続けた結果、2005年の死傷惨事を誘発した		
2. 「開かずの踏切」の遮断時間を安全確保上必要な最小限に抑えるべき対策や、踏切保安係の人為ミスによる事故が発生するのを未然に防ぐべき対策など、踏切施設の管理者として当然の責任を果たさない様々な不作為の結果、死傷惨事を誘発した		
3. 死傷惨事発生を受けて踏切を自動化する際、地域住民には「自動化しても閉まっている時間は手動時代と変わらない」と説明していたにもかかわらず、実際には安全確保とは無関係な、必要以上に長すぎる踏切遮断によって遮断時間をいたずらに延ばし、地域住民の「移動の自由」=交通権を侵害している事実を認めずにいる		
第1章 竹ノ塚踏切死傷惨事発生前の、第37号踏切立体化を求める住民運動など		
書き下ろし解説	6	017-022
・ 「交通権」をキーワードに考える、「開かずの踏切」問題・概論		
・ 全国の「開かずの踏切」が遅々として解消されない理由		
・ 竹ノ塚での「開かずの踏切」問題・略史		
・ 『東武鉄道百年史』に見る、竹ノ塚の踏切問題に対する東武鉄道の姿勢		
東武鉄道・高架線を竹の塚駅まで延長要請に関する請願（1974年4月4日・足立区議会で採択）	2	023-024
竹の塚踏切高架に関する請願（1980年6月28日・足立区議会で採択）	2	025-026
東武線竹ノ塚駅付近の鉄道高架化に関する要望（2001年11月12日付けで足立区長に提出された署名用紙。原本はA3判）	1	027

第37号踏切を迂回するための、周辺道路等の整備経過 (参考) 鉄道連続立体交差化費用区負担反対に関する意見書 (1980年12月19日・足立区議会で採択)	1	028
	1	029
第2章 竹ノ塚踏切死傷惨事発生当時の、第37号踏切を取り巻く状況 書き下ろし解説	1	030
竹ノ塚駅構内略図および信号機建植位置図	3	031-033
第37号踏切の詰所(番舎)内の遮断機操作席付近の機器配置図	2	034-035
第37号踏切を通過する列車本数の変遷	5	036-040
第37号踏切の列車通過時刻表		
その1・平日朝ラッシュ時間帯分(7~8時台)	5	041-045
その2・事件発生時間帯分(平日16時台)	2	046-047
竹ノ塚駅で時間調整する長時間停車列車の一覧表(事件発生当時(2003年 3月19日改正、2004年10月19日現行)のダイヤによる)	1	048
第37号踏切付近の信号機器等の設置地点一覧表(踏切自動化後の調査デ ータ。第37号踏切と第38号踏切に関係する信号機器類のみ記載)	5	049-053
第3章 竹ノ塚踏切死傷惨事発生後の、東武鉄道の対応 書き下ろし解説	2	054-055
・東武鉄道は竹ノ塚踏切死傷惨事について、全社を挙げてノーコメント ・東武鉄道による一方的な献花台移設は「くさいものにふた」的姿勢の反 映		
伊勢崎線竹ノ塚駅構内第37号踏切道における死傷事故について(もくじ)	1	056
伊勢崎線竹ノ塚駅構内第37号踏切道における死傷事故に関するお詫び (2005年3月16日付け)	1	057
東武伊勢崎線竹ノ塚駅付近における緊急踏切対策について (2005年4月22日付け、足立区と共同発表)	2	058-059
竹ノ塚踏切事故に関する安全対策の推進について (2005年7月27日付け社内調査報告書、2005年10月31日付けで一部追記)	12	060-071
伊勢崎線竹ノ塚駅構内踏切道の自動化および西口エレベーターの使用開始 について(2005年9月13日付け)	4	072-075
伊勢崎線第37号踏切直近の歩道橋を使用開始いたします (2006年3月8日付け)	2	076-077
竹ノ塚駅構内踏切道における安全への取り組み (竹ノ塚駅構内2ヶ所の踏切周辺と竹ノ塚駅構内に掲出されたポスター)		
2005年8月1日付け	1	078
2005年9月17日付け	1	079
2005年9月29日付け	1	080
2006年3月9日付け(2008年10月現在、継続掲出中)	1	081
第4章 竹ノ塚踏切死傷惨事発生から自動化直後までの、第37号踏切と 第38号踏切の状況(実地調査報告) 書き下ろし解説	2	082-083
・2005年9月の踏切自動化前に「自動化しても閉まっている時間はこれま でと変わらない」としていた東武鉄道の発表は、真っ赤なウソだった!		

・東武鉄道で使用しているATS（自動列車停止装置）について 東武鉄道伊勢崎線竹ノ塚駅構内「伊勢崎線第37・38号踏切」自動化後の踏切遮断状況等の調査報告書（自動化前および自動化後の踏切遮断状況の実測調査と、自動化前後の遮断状況の比較結果を含む）	15	084-098
手動時代の第37号踏切と第38号踏切において、安全確保上必要のない過剰な踏切遮断時間が存在していた事実を検証した計算結果	5	099-103
手動時代の第37号踏切と第38号踏切で使用されていた警報音についての考察と、その周波数特性の解析結果	2	104-105
手動時代の第37号踏切と第38号踏切で使われていた警報音の録音（周波数特性の解析に使用したもの）のリスト	1	106
第37号踏切と第38号踏切における、踏切監視要員の「確認喚呼」の実行状況（2005年6月10日～2005年10月1日の調査結果）	4	107-110
第5章 竹ノ塚踏切死傷惨事発生後の、地元の動き （「竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会」結成前後まで）		
書き下ろし解説	1	111
東武伊勢崎線竹ノ塚駅付近の鉄道高架化を求める意見書 （2005年3月24日に足立区議会本会議で可決され、4月6日に東京都都市整備局長へ、7日に国土交通大臣へ、それぞれ足立区長から直接手渡し）	1	112
東武伊勢崎線竹ノ塚駅付近の鉄道立体化を求める要望書 （上記「～意見書」と一緒に、東京都都市整備局長および国土交通大臣へ、足立区長から直接手渡し）	1	113
東武伊勢崎線竹ノ塚駅付近の鉄道高架化早期実現を求める要請書 （地元町会自治会連合会による署名用紙。原本はA3判）	1	114
足立区議会鉄道高架化促進議員連盟総会資料（2005年5月13日開催、抜粋）	7	115-121
竹ノ塚駅鉄道高架化早期実現の会・総決起集会資料 （2005年5月20日開催、抜粋）	6	122-127
竹ノ塚駅鉄道高架化早期実現の会・総決起集会での半沢の基調講演の要旨	6	128-133
東武伊勢崎線竹ノ塚駅付近の鉄道高架化を求める意見書 （2005年10月21日の足立区議会本会議で可決され、同日中に国土交通大臣および東京都知事あてに郵送）	1	134
足立区竹ノ塚鉄道立体化資金積立基金条例 （2005年10月21日の足立区議会本会議で可決・成立） （参考）連続立体交差事業の採択基準の拡充 （国土交通省の2006年度当初予算案内示資料から抜粋）	1 2	135 136-137
第6章 踏切保安係の刑事裁判の傍聴記録		
書き下ろし解説	2	138-139
・「赤ボタンを使わないと車の渋滞が広がってパニックになる」は迷信か？		
・「赤ボタン」を使うことを前提として服務姿勢の悪さを責めるのは筋違いでは？		
初公判（2005年5月24日。人定質問、罪状認否、冒頭陳述など）	3	140-142
第2回公判（2005年7月19日。遺族への証人尋問）	3	143-145
第3回公判（2005年9月5日。同僚の踏切保安係が現場の実情を証言）	9	146-154

第4回公判（2005年10月7日。東武鉄道本社鉄道事業本部運輸部運転課長（踏切惨事発生当時）が踏切の安全管理体制について証言）	11	155-165
第5回公判（2005年10月31日。被告人質問）	13	166-178
第6回公判（2005年12月19日。被告人質問の続き、論告求刑、最終弁論）	5	179-183
判決公判（2006年2月3日）	1	184
判決文	4	185-188
第7章 竹ノ塚踏切死傷惨事に関連して、半沢が作成した文書類（一部のみ収録）		
書き下ろし解説	1	189
その1・東武鉄道あて質問状と回答書など		
2005年4月28日付け 東武鉄道あて公開質問状（実物はA5判袋とじ）	7	190-196
2005年5月27日付け 東武鉄道からの回答書	3	197-199
2005年6月9日付け 東武鉄道あて再質問状（実物はA5判袋とじ）	4	200-203
2005年6月9日付け 東武鉄道あて関連文書の送り状	2	204-205
2005年6月29日付け 東武鉄道からの回答書	2	206-207
2005年8月4日付け 東武鉄道あて第三質問状（実物はA5判袋とじ）	7	208-214
2005年8月4日付け 東武鉄道あて関連文書の送り状	1	215
2005年8月30日付け 東武鉄道からの回答書	2	216-217
その2・国土交通省あて問い合わせと回答書など		
2005年3月31日付け 鉄道局技術企画課安全対策室あて問い合わせ状	2	218-219
2005年4月21日付け 鉄道局技術企画課安全対策室からの回答書	3	220-222
2005年5月5日付け 鉄道局技術企画課安全対策室あて要請書	2	223-224
その3・捜査・司法機関への働きかけなど（主なもののみ収録）		
2005年6月26日付け 東京地方検察庁あて要請書	3	225-227
2005年7月6日付け 東京地方検察庁あて告発状	2	228-229
2005年11月10日付け 東京地方検察庁担当検事あて追加の告発状	6	230-235
2006年3月27日付け 東京地方検察庁からの処分通知書	3	236-238
2006年3月29日付け 東京地方検察庁あて請求	1	239
2006年4月14日付け 東京地方検察庁・担当検察官あて質問状と回答メモ	8	240-247
2006年8月4日付け 東京第一検察審査会あて申立書	6	248-253
2006年8月7日付け 東京第一検察審査会からの審査申立受理通知書	2	254-255
2007年1月18日付け 東京第一検察審査会からの議決通知書	3	256-258
その4・足立区議会あて陳情と、区議会事務局からの通知		
手動式踏切の安全確保に係る技術基準を定めるよう国土交通省に求める意見書若しくは決議の採択を求める陳情	1	259
請願・陳情の審議未了について	1	260
東武伊勢崎線竹ノ塚駅構内「伊勢崎線第38号踏切」における車両通行規制の実施を求める陳情（2005年11月10日付けで提出した最初のもの）	2	261-262
同上（2007年6月1日付けで再提出したもの）	4	263-266
陳情の議決について	1	267
東武伊勢崎線竹ノ塚駅構内の踏切の遮断時間短縮を求める陳情（2006年6月2日付けで提出した最初のもの）	4	268-271
同上（2007年6月1日付けで再提出したもの。添付資料は上記「～第38号踏切～陳情」と共通のため割愛しました）	3	272

陳情の議決について	1	273
その5・交通権学会で発表した文書		
交通権学会誌『交通権』第23号(2006年7月1日・発行)所収論文 「東武鉄道『伊勢崎線第37号踏切』での死傷事件はなぜ起きたか - 手動式踏切における保安対策のあり方に関する考察 - 」	16	274-289
第8章 東武鉄道以外の各鉄道事業者における、踏切保安対策の概要		
書き下ろし解説	2	290-291
・「踏切保安対策に関するアンケート調査」で浮かび上がった、手動時代の竹ノ塚の踏切の異常な実態		
・「開かずの手動式踏切」の調査で浮かび上がった、国の踏切保安基準制度の不備		
「踏切保安対策に関するアンケート調査」の依頼状と調査票	5	292-296
「踏切保安対策に関するアンケート調査」の集計結果	4	297-300
関東大手私鉄各社における踏切遮断時間の実地調査結果	7	301-307
全国の「開かずの手動式踏切」の概況報告書 (「手動式踏切の～陳情」の関連資料として足立区議会に提出)	6	308-313
私鉄他社と比較した、自動化後の竹ノ塚の踏切制御の問題点 他社にできる踏切遮断時間の短縮が、なぜ東武鉄道にはできないのか? (「東武伊勢崎線竹ノ塚駅構内の踏切の遮断時間短縮を求める陳情」の関連資料として足立区議会に提出)	3	314-316
京浜急行電鉄八丁畷駅構内「京急川崎第1踏切」における遮断状況の測定調査結果と、この調査結果からわかる、踏切の安全性を確保しながら遮断時間を最少とする計算式 (手動時代の竹ノ塚の踏切における遮断時間が、安全確保上必要十分な長さを大幅に上回る、過剰なものであったことを証明する解説も収録)	5	317-321
第9章 その他の資料		
伊勢崎線第37号踏切における死傷惨事関連の年表	14	322-335
竹ノ塚踏切死傷惨事ほか一連の踏切問題に関連する法令(抄録)		
鉄道事故および国土交通省航空・鉄道事故調査委員会に関する法令	2	336-337
鉄道営業法	1	338
鉄道事業者に対する監査に関する法令	2	339-340
運転の安全の確保に関する省令	2	341-342
竹ノ塚踏切死傷惨事に関係する機関と、担当・責任者のリスト	2	343-344
番外1 東京地方検察庁の担当検察官が告発を放置していた問題		
印は「番外2」にも関連する資料です。		
2006年5月30日付け 総務省東京行政評価事務所からの問い合わせ	3	345-347
2006年6月4日付け 総務省東京行政評価事務所あて事務連絡 (「東武伊勢崎線竹ノ塚駅踏切死傷惨事に係る、東京地方検察庁担当検察官とのトラブルの事実経過」の一覧表を含む)	2	348-349
2006年7月4日付け 東京行政評価事務所からの報告	3	350-352
2006年10月2日付け 法務省大臣官房人事課あて申立書	2	353-354
2007年11月6日付け 総務省東京行政評価事務所行政相談課あて事務連絡	1	355

2007年11月6日付け	法務省検察官適格審査会からの通知	2	356-357
2007年11月13日付け	総務省東京行政評価事務所行政相談課あて依頼状	1	358
2007年11月27日付け	総務省東京行政評価事務所行政相談課からの報告	1	359
	検察官の職務怠慢の問題に関する法令	2	360-361
番外2	竹ノ塚駅長などへの不起訴処分決定に対する不服審査申し立て制度 ( 検察審査会法第32条の解釈方 ) をめぐる問題 ( 番外1「東京地方検察庁の担当検察官が告発を放置していた問題」にも、 この問題に関連した記述を含む資料があります )		
2006年5月8日付け	東京検察審査会あて問い合わせ状	1	362
2006年5月9日付け	東京第一検察審査会からの事務連絡	3	363-365
	検察審査会の一事不再理制度に関する法令	1	366
追録	東武東上線ときわ台踏切「事故」への疑問符 書き下ろし解説( 下記「踏切支障報知装置の欠陥の是正を求める陳情」の 関連資料として足立区議会に提出。2007年11月10日に交通権学会が開催 した「公共交通の安全を考えるシンポジウム」へも寄稿 )	9	367-375
2006年3月26日付け	国土交通省航空・鉄道事故調査委員会あて要請書	5	376-380
	踏切支障報知装置の欠陥の是正を求める陳情	2	381-382
	陳情の議決について ( 2007年8月4日付け板橋警察署長あて告発状は、下記9月16日付け東京 地方検察庁特別捜査部直告班あてとほぼ同一内容のため、割愛しました )	1	383
2007年8月10日付け	板橋警察署からの告発状返戻の送り状	1	384
2007年8月11日付け	板橋警察署長あて問い合わせ状	1	385
2007年8月17日付け	板橋警察署からの回答書	1	386
2007年9月16日付け	東京地方検察庁特別捜査部直告班あて告発状	7	387-393
2007年12月10日付け	東京地方検察庁特別捜査部直告班からの告発状返戻 の送り状	1	394
終章	竹ノ塚の踏切問題から明らかになった、鉄道事業者としての 東武鉄道の問題点( 書き下ろし解説 )	4	395-398
竹ノ塚の踏切問題から明らかになった、東武鉄道の企業体質の本質			
1. 竹ノ塚踏切死傷惨事発生以前の「開かずの踏切」問題に関する事			
2. 竹ノ塚踏切死傷惨事に直接関係する、踏切の安全管理に関する事			
3. 竹ノ塚踏切死傷惨事発生後に自動化されてからの「開かずの踏切」問題 に関する事			
「迷惑喫煙乗り入れ問題」当時から垣間見えていた、東武鉄道の安全軽視体 質			
結論・東武は鉄道界から退場せよ - 東武鉄道不信任宣言			
参考文献		1	399
奥付		1	400